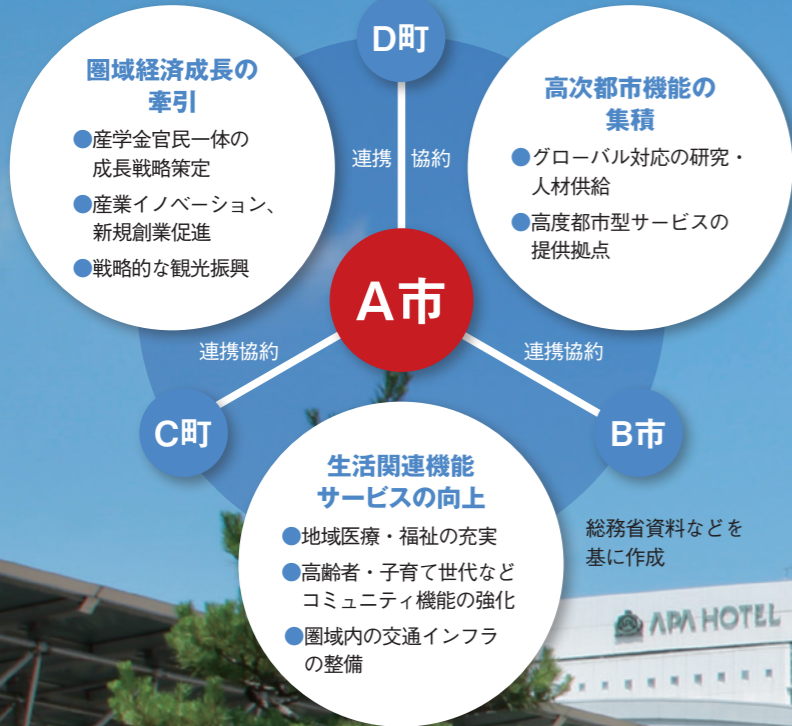


地方中枢拠点都市の機能イメージ



地方中枢拠点都市とは、三大都市圏以外の都市で、人口20万人以上、昼間人口を夜間人口で除して得た数値がおおむね1以上であることなどを要件としている。

# 輝きを 集めるまち

交通の発展は交流を生み、  
まちの魅力を増幅させる

政府は地域活力の引き上げを目指すため、地方中枢拠点都市の制度化を進めている。  
地方中枢拠点都市は高次の都市機能を集積し、まちづくりや子育て、福祉などの生活関連のサービスを充実させ、地域の経済成長の牽引役として期待されている。そのなかでも、新幹線開業でこのところ注目を集めているのが、北陸地方の金沢市。まちづくりと観光のバランスが取れた金沢市に、地方中枢拠点都市のひとつのあり方をみた。





# Why?

## 交流促進の時代とは？

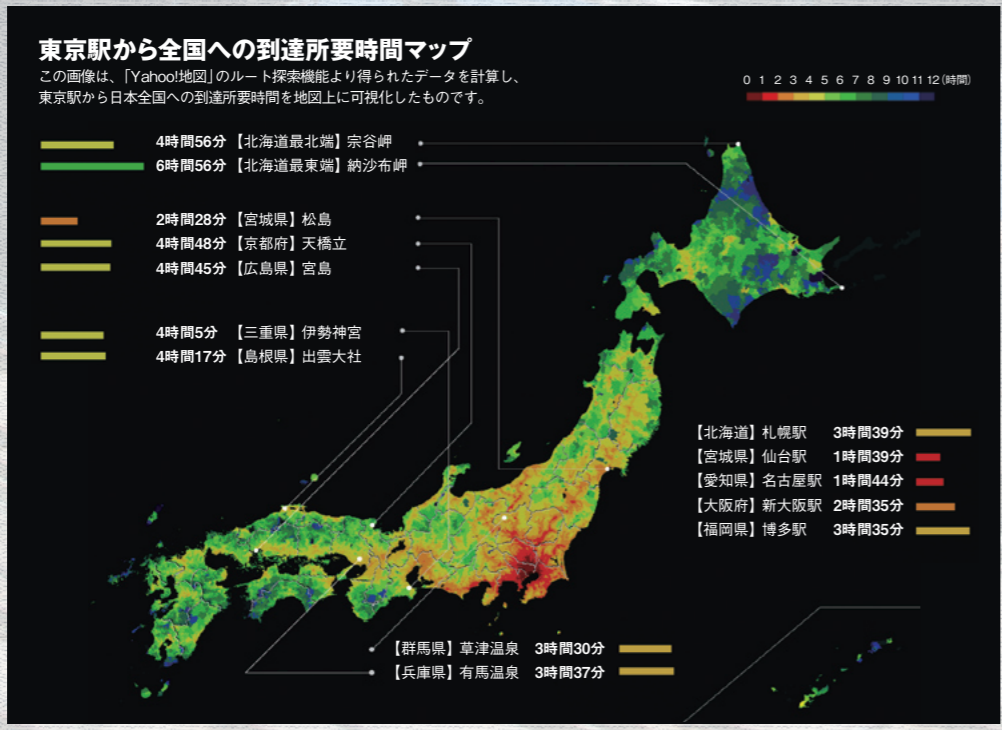
今年3月の北陸新幹線開業前から、テレビ、雑誌などは金沢の観光ガイド一色となった。実際に首都圏からの旅行客は増え、金沢を訪ねる外国人旅行客も激増している。超高速交通で都市間が結ばれることによって、それぞれの都市はどう変わっていくのか？増え続ける外国人旅行客には、新幹線などの国内交通網を利用し、東京、京都ばかりでなく、全国各地の地方都市を訪ねてもらいたいことも期待されている。訪日外国人旅行客のますますの増加が見込まれるなか、交通システムの担う役割は大きい。

Data 2

### 全国に張り巡らされる高速交通

**!** 新幹線、飛行機、高速バスなど、多様な交通手段で全国の都市間が結ばれる時代となる

首都東京との間に、高速で直通の交通手段を持つことは、地方都市にとって大きなポテンシャルとなる。全国にくまなく張り巡らされつつある新幹線網に加え、国内線の増便、高速バスの普及で利用者の選択肢も増えた。今後はLCCの普及やリニアの開通で、都市の利便性は飛躍的に高まっていきそうだ。



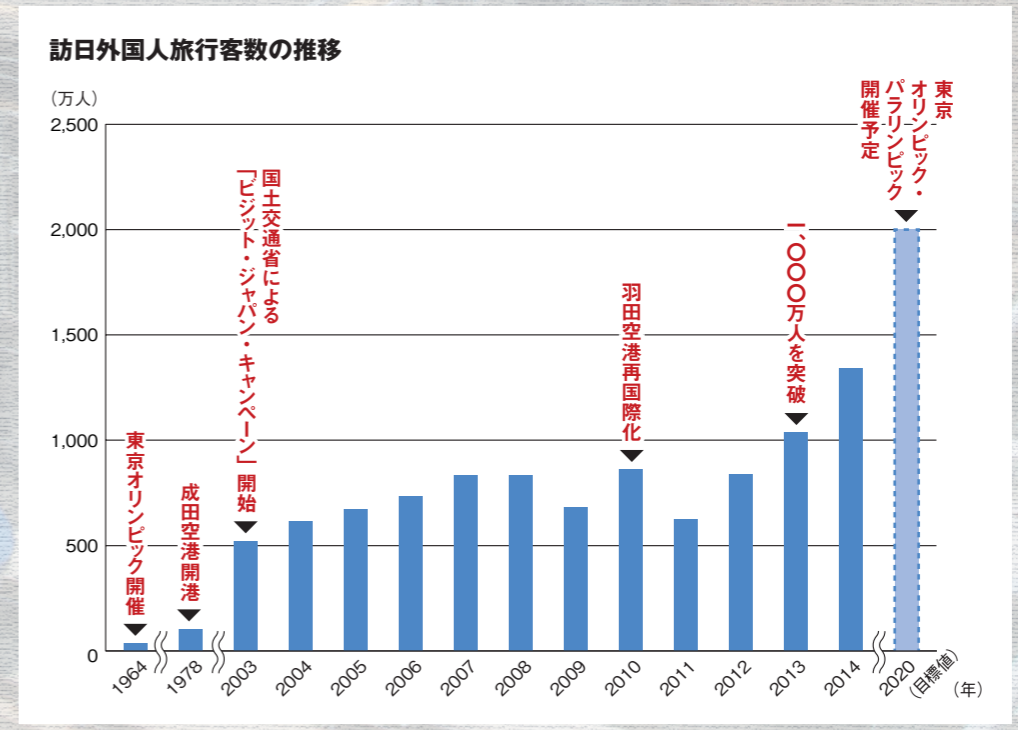
出典：Yahoo! JAPANビッグデータレポート「リニアは日本をどれだけ狭くするの？ ～到達所要時間ビジュアライゼーションマップに挑戦～」  
※ヤフー株式会社が運用するYahoo!地図の「ルート探索」を使ってビックデータ処理を実施した「データビジュアライゼーション地図」 作成条件：  
①「東京駅」を出発地とする ②出発時間を「平日午前7時とする」 ③交通手段は「徒歩」「車」「電車」「新幹線」「バス」「フェリー」「飛行機」とする  
④到達地点は、日本全国の町丁目エリア約19万件の代表点を設定する(例：○○町○○丁目) ⑤到達時間の最大値は出発から12時間後までとする

Data 1

### 訪日外国人旅行客の推移

**!** 増え続ける訪日外国人旅行客 2030年の目標値は3,000万人へと引き上げられた

国内の人口減少化の中、訪日する外国人旅行客による消費には、大きな期待が寄せられている。円高、原発事故などで低迷していた旅行客数は、2012年以降増加を続け、今年は過去最高の1,800万人前後になる見込み。今後は2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けての増加が期待されている。



日本政府観光局「年別 訪日外客数、出国日本人数の推移 (1964年-2014年)」を基に作成  
※財務省資料に基づき、外国人正規入国者のうちから日本に永続的に居住する外国人を除き、さらに一時上陸客等を加えて集計した。



# 金沢市

長期的に取り組む「まちづくり」が  
観光資源として開花する

先進自治体

## 世界の交流拠点都市として 発展するまち「金沢」

今年三月十四日に北陸新幹線が開業して、東京と最速二時間二十八分で結ばれるようになった北陸の古都・金沢。

一日約三〇万回という首都圏と新たな大動脈がつながり、ビジネスや観光が活性化している。

開業から半年を過ぎても、街のにぎにぎしい雰囲気は衰えることを知らない。新幹線が到着すると観光客が駅前にあふれ、特に週末の人は目を覚ますものがある。

金沢市企画調整課に取材すると、市の新幹線開業対策では、観光プロモーションに主眼を置いていたわけではない。人々を魅了する観光コンテンツ満載の金沢において、そんな話をちよつと

意外に思った。

「金沢市が意欲的に取り組んできたのは、観光ではなく、市民が住みやすく、来街者が快適に過ごしてもらいたいような、地道な『まちづくり』です。金沢の持つ歴史や伝統文化を大切にすることで、国内外からの人や情報が集まり、交流が生まれることで引き出される新たな街の魅力を大事にしていきたい。それが金沢らしさの醸成につながると思っています」と語るのは、金沢市企画調整課の新保博之交流拠点都市推進室長。

そもそも金沢は、前田利家が金沢城に入城して以来四三〇年、戦災や大きな災害に遭っていないという歴史と伝統が残る城下町だ。京都の公家の文化に対し、金沢は武家の文化という特徴を持つ。また、金沢市には昭和四十三年に制



定した「伝統環境保存条例」がある。伝統的な街並みを守るため、利便性と効率性を求めて開発を押し進めるのではなく、不便と共存しながらも伝統を守る方法を自ら選んだ。

この金沢の街の魅力を最大限に活かそうと、山野之義市長は平成二十五年、「世界の交流拠点都市金沢」という方針を表明した。国内外から人・モノ・情報の集積を図り、その交流を通じて新たな価値を創造し、持続的な発展を続けるまちを目指すとしている。そして金沢市では、開業に先駆けること一八年前の平成九年から、北陸



金沢市都市政策局 企画調整課 交流拠点都市推進室長 新保博之 Hiroyuki Shinbo

新幹線開業の効果を最大限に引き出すための計画を立ててきた。このなかで特徴的なものも、やはり「まちづくり」。

都心軸である金沢駅、武蔵ヶ辻、片町、香林坊に至る通りを整備するとともに、古くからの街並みは守る「開発と保全の調和」という考え方を条例に基づいたまちづくり（下図）に反映させてきた。

## 市民と観光客双方に 配慮した交通計画

しかし、金沢市にも区画整理により住宅地が郊外へ拡散していった実態がある。その結果、郊外に商業施設の立地が進み、車中心の市街地が形成されるという地方都市ならではの現象が起きている。今後は高齢化が進むこともあり、運転ができない人が増えてくるため、中心市街地の活性化と併せ、

## 土地利用構成と主要な都市機能



- 凡例
- 【骨格的土地利用ゾーン】
    - 中心市街地ゾーン
    - 市街地ゾーン
    - 農業環境ゾーン
    - 自然環境ゾーン
  - 【拠点】
    - 都市拠点
    - 地域中心拠点
    - 産業拠点
    - 学術拠点
  - 【軸】
    - 都心軸
    - 広域交通ネットワーク
    - 鉄道（JR線）
    - 北陸新幹線（計画）
    - 自動車専用道路
    - 都市内交通ネットワーク
    - 主要な幹線道路
    - 鉄道（北陸鉄道）
  - 【その他】
    - 主要な河川・河北潟・日本海
    - 行政区域
- （提供：金沢市）

「らしさ」を  
守り育てるまちづくり





金沢駅東口のバスターミナルには計13カ所の乗り場がある。(提供: 株式会社金沢商業活性化センター)

# 外向き・内向きの交通軸を整備し 暮らしやすい金沢へ



金沢駅東口の路線バスのバスターミナルでは、目的地に行くのに、どのバスに乗ればよいかのわかりにくいという観光客の声に応えて、新たに案内板を設けた。

街中の歩行環境の改善や、バスなどの公共交通を充実させていくことが課題となっている。  
金沢市交通政策課の「山善広課長補佐は、「市内の公共交通機関のメインはバスです。人々の移動が広域化・分散化してきているため、公共交通による移動を優先的に確保すべきバス路線を公共交通重要路線と位置付け、運行頻度の

向上や定時性の確保など利便性の向上を図るとともに、他の生活路線等との円滑な接続も図りたいと考えています。一方、公共交通が不便な地域に関しては、地域の町会等が運営するコミュニティバスに対する支援を行っています」と説明する。  
さらに一山課長補佐は「観光客の方にもバスを活用していただくために、金沢駅東口に主要観光地別の乗り場やダイヤが一目でわかる案内板を設置しました。外国人観光客も増えているので、日本語のほか中国語繁体字、英語など、リーフレットの多言語化にも力を入れていきます」と語る。



金沢市交通政策課 交通政策課 課長補佐 一山善広  
Yoshihiro Ichiyama

また、街中における渋滞対策にも注力し、ゴールデンウィークや、百万石まつりなど、街中の渋滞が予測される際にはパーク・アンド・ライドを実施し、事前にパーク・アンド・ライドを実施し、事前にパーク・アンド・ライドや公共交通の利用を促すための情報をホームページや新聞広報等で発信している。  
**用意周到さが光る金沢市の新幹線開業に向けた戦略**  
北陸新幹線の開業以降、金沢市の観光客は目に見えて増加し、市内の至る所にガイドブックをもった国内外の観光客の集団が目につく。その様子からは、この観光チャンスをつかむために開業前は大変だったと想像するが、金沢市の新幹線開業に向けた取り組みはもともと前から始まっており、周到な準備を整え、万全の取組みでその日を迎えたという。

平成十八年三月には、北陸新幹線の開業も見据えた「金沢市観光戦略プラン」が策定された。この中には、五つの基本戦略と二四の具体的戦略として、金沢市が持つ魅力の伝え方やまちづくりと連動したインフラ・施設整備計画などがまとめられている。また、平成十九年十二月には、新幹線に対応した各種施策に戦略的かつ計画的に取り組むための「金沢魅力発信

行動計画」を策定した。これらは、実行と見直しを繰り返し、着実に遂行されてきた。そして、開業前の総仕上げとして、平成二十五年三月に、「新幹線開業プロモーション・イベント実施計画」を策定し、開業後も見据え、平成二十九年までプロモーションを展開することとしている。

「金沢は観光都市を表明していたわけではない、ひたすら『まちづくり』を一生懸命やっていた。良い街をつくれれば、おのずと人は来るという考え方で、観光戦略プランもその考え方に基づいているんです」と、以前は観光交流課、現在はプロモーション推進課に在籍する古谷健担当課長は話す。

しかし、新幹線開業という千載一遇の機会をしっかりとものに、



駅構内の観光案内所もリニューアルされた。(提供: 金沢市)

より多くの方に金沢に来ていただきたいという熱い思いも当然あった。「百年に一度あるかないかのチャンスです。それはしっかりと掴まないと、ということですが、現在所属している宣伝専門の課となるプロモーション推進課ができたんです」と、古谷担当課長。この課では、新幹線を行くJR西日本、JR東日本との連携事業、旅行会社やメディアへのPRを専門に担当している。

プロモーション推進課が企画した観光コンテンツに、古地図を使



「金沢魅力発信行動計画」は、平成19年度から25年度までの7カ年の計画として策定。実行と見直しを繰り返してきた。



良い街をつくれれば、  
おのずと  
人は集まる





駅裏から新都心へ  
西口エリアが  
生まれ変わる



金沢市経済局  
プロモーション推進課  
担当課長(兼)課長補佐  
**古谷 健**  
Takeshi Furuya

古谷担当課長はさらに今後の課題について語る。「二十七年度的上半期、九月までのツアーは、新幹線開業前に作られた旅行商品で、『北陸新幹線開業、金沢』と書いて

って街歩きができる「金沢古地図めぐり」と、それぞれの時代の特徴的な建築物をめぐる「金沢アーキテクチャー・ツーリズム」がある。加賀藩として栄えた時代から街の区割りがほとんど変わらず、藩政時代の建築から、近代・現代建築など各時代の建築が併存している金沢だからこそ実現できた企画だ。「金沢は五〇年前から、開発と保全の調和を謳ってきました。あえて自らを縛り、伝統を残し金沢らしさを守ることを選んできました。結果としてそれが、来街者を強く魅了する重要な観光コンテンツへと昇華させることができました」。



武家屋敷の残るエリアなど江戸時代そのままの街並みを味わうことができる。



江戸時代そのままの街路が残っていることに着目して古地図を使っての街歩きマップ「金沢古地図めぐり」を作ったところ好評を得た。

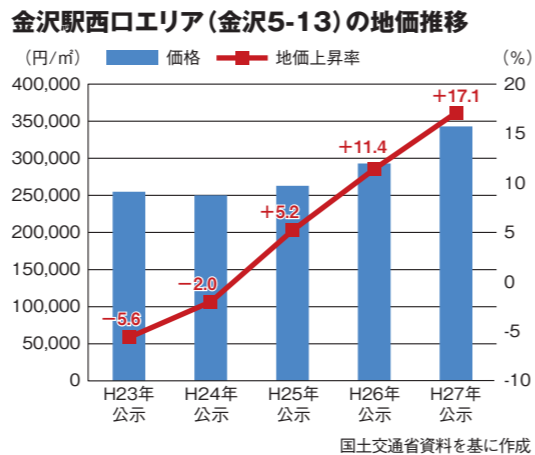


北陸新幹線の開業とともに金沢が注目されたニュースがある。金沢駅西口の地価上昇率が全国一位を記録したというものである。いわゆる金沢らしさのある伝統

新幹線開業の如実な効果  
西口エリア地価上昇率  
一七・一%

金沢市は都市戦略として、新幹線開業の一年前にはすべての準備を終えることを目標に着々と計画を進めていた。この用意周到な北陸の歴史都市は、新幹線開業という機会を経て、今後ますますのにぎわいを得ていくことだろう。

金沢らしさの喪失、企業撤退、消費の流出など多くの問題が危惧されたが、それぞれに対して積極的な対策を講じている。その一つが、二時間半で東京と行き来できるようになったことに着目し、週末だけでも金沢で暮らしてみたいという二地域居住「金沢ふうライフ」の提案だ。クリエイター層など、ネット環境を利用しながら金沢の町家を仕事場に行っている人も出てきている。

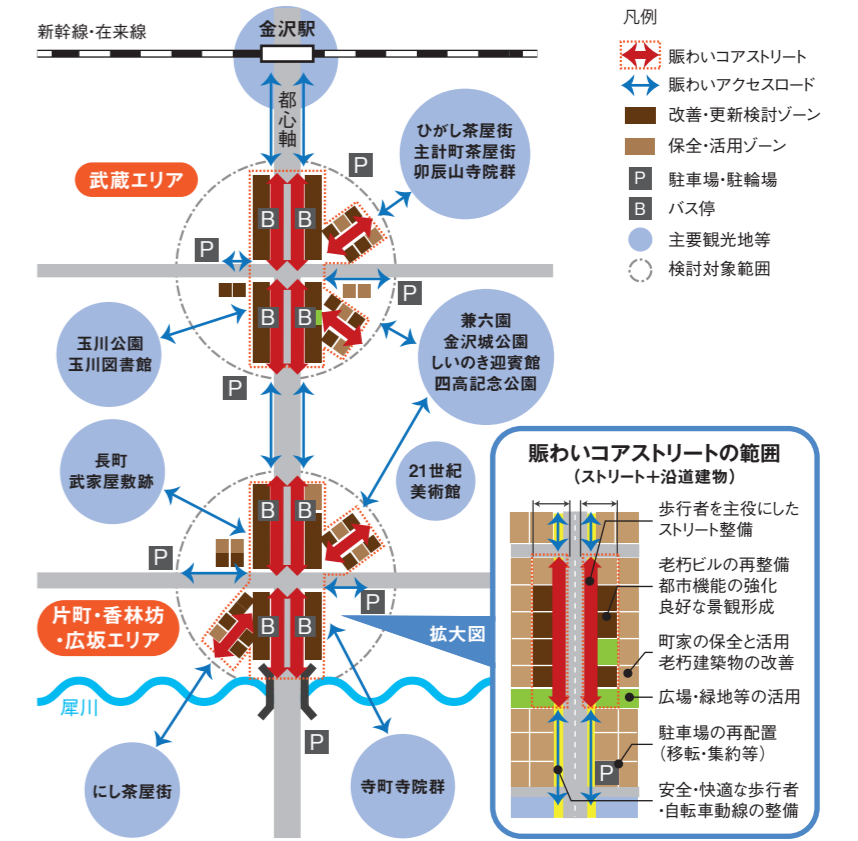


的な街並みは金沢駅の東口(兼六園口)側に広がっている。それに對し、金沢港側である西口(金沢港口)側は一昔前までは「駅裏」と言われる開発の遅れていた地域。しかし近年は新都心エリアという位置づけで開発が進んでいる。また、新幹線開業に伴い、西口側には新しいホテルやオフィスビルなども続々と建設され、西口駅前広場前に外資系ホテルを誘致したいということでの調査も始まっている。東西それぞれの役割を担う金沢の街の将来が囑望されている。

あれば、お客様はいらしてくれただけ、お私たちが取り組んでいるのは、『新幹線開業』というフレーズに頼らず、いかに金沢の真の魅力をどれだけの方に伝えられるかということ。そこに照準を合わせてPRしていくのが今の仕事。正念場はこの秋からですよ」と語気を強めた。

金沢市の新幹線開業までの万全な体制には驚かされるが、その中でも特筆すべきことは、平成二十三年の時点ですでに「新幹線開業の弊害」について検討を始めていたことだ。日帰り観光客の増加や

都市機能向上の基本的イメージ



冷静にマイナス要素も  
直視し是正する屈強さ

(提供: 金沢市)



# JR金沢駅

駅そのものが  
「金沢流のもてなし」を体現

先進施設

## 駅コンコースが担う 都市軸の役割

新幹線で金沢駅に降り立つと、まず驚くのは駅空間の素晴らしさだ。金箔の貼られたホームの柱、伝統工芸の作品に彩られたコンコース。そして中心市街地側である東口に出ると壮麗なガラス製のもてなしドームと、ダイナミックな

造形の鼓門に出会い、さらに気分が盛り上がる。動線の整理も巧妙で、だれもが一度は経験があるような目的の出口を求めてさまよう、ということとは無縁なわかりやすさがある。新幹線の改札を出て、右を向けば兼六園口（東口）、左を向けば金沢港口（西口）が目に入る。この駅の東口と西口を繋ぐコンコースは、

金沢市の都心軸を担っている。コンコースは、駅の東口と西口の都市軸を貫通する通路となっており、東西すべて同じデザインで統一されている。通路には門の形をした柱が一二対並び、柱には伝

統工芸品のほか、駅構内の案内板、広告用のデジタルサイネージや、パンフレットのラックなどが組み込まれ、駅全体をすっきりと整然とした空間にしている。この金沢駅コンコースの内装リ

ニューアル工事を担当したのが西日本旅客鉄道株（株）金沢建築区。宮本茂区長は「それまでの大理石の柱を撤去して、新たに『能登ひば』を使ったゲートを設置しました。ゲート型にしたことで、東口と西口がドーンと見渡せるわかりやすさも実現できました」。

さらにコンコースの特徴として、「床も全面貼り替えていて、加賀友禅の加賀五彩という伝統色を使った四角いワンポイントが並んだデザインです。石川県産の材料にこだわり、和紙を挟み込んだ合わせガラスなども使用しています」と語る。

ゲート型の柱二四本にはすべて異なる金沢伝統的工芸品がはめ込まれ、加賀友禅や和紙、九谷焼や輪島塗などの石川県の工芸作品が並び、まるで美術館のような空間が印象的だ。駅の中央にあたる

駅を中心「みどりの窓口」前の空間を彩る、幅8m、高さ4mという巨大な大樋焼の陶壁「日月の煌き」。文化勲章受章者の十代 大樋長左衛門氏の作品。



駅の東西を貫通するコンコース。統一された形のゲートが並び、床は加賀五彩のワンポイントのデザインに貼り替えられた。照度を保ちながら、陰影を感じさせる照明も駅空間を美しく演出している。



西日本旅客鉄道株式会社  
金沢建築区  
区長  
**宮本 茂**  
Shigeru Miyamoto

「みどりの窓口」前には、文化勲章受章者でもある金沢・大樋焼の十代 大樋長左衛門氏の巨大な陶板作品も設置されている。宮本区長はこの作品の製作段階から作家と打ち合わせ、設置までを担当。作家の意向を100%現場で実現させることに力を尽くした。駅空間を美術館とも思わせる理



# 地方創生応援隊!

## 建設業 in 金沢市

Project	北陸新幹線、金沢駅新築工事 施工：清水・大鉄・表 特定建設工事共同企業体
Message	金沢の玄関口である美しい駅の工事に携わることができたのは、地元支店としての誇りです

まるで美術工芸ギャラリーのような金沢駅構内。新幹線改札内にも見どころは多く、ホーム柱には金沢名産である金箔を贅沢にも2万枚以上使用した。通路壁面や柱は加賀友禅や和紙で彩られ、待合室には惜しげもなく金沢伝統工芸品が飾られている。それらの施工を担当したのは、清水建設北陸支店。金沢に支店を構えているだけに、地元の玄関口となる金沢駅にける思いは一入だった。

工事長の中山正夫氏は、「地元の伝統工芸を最大限に美しく見せるために、設置にあたり、さまざまな工夫と努力を重ねた」と語る。

コンコースの「光の柱」の和紙を壁面にはめ込むにあたっては、LEDの光で影が生まれにくいよう反射板を用いて左右から投射する方法を模索し、現場での改良を重ねた。通路壁面の加賀友禅はガラスとフィルムで両面から挟んでセットしてあるが、工場での製作作業に中山工事長

が自ら立ち会うなど、細心の注意を払った。

圧巻なのは、待合室に展示してある30品目236点の伝統工芸品。九谷焼や加賀友禅、漆器や竹細工、郷土玩具や獅子頭など立体の作品もあるため、施工調整により展示スペースに10cmの奥行きを設けた。集まった作品はJV職員総出で管理し、取り違えが発生しないように現場一丸となって取り組んだ。

特に苦勞したのは、在来線が稼働しているすぐ横でのホーム工事。作業スペースが限られるため、すでに完成していた新幹線の軌道の上に仮設構台をつくって資材搬入用の台車を通すなどして課題を克服していった。

中山工事長は地元金沢の出身。「石川県、金沢市、西日本旅客鉄道(株)、鉄道・運輸機構など関係者が一丸となって工事に臨んだ。みんなでアイデアを出し合い、妥協せず、いい仕事ができたと振り返る。



清水建設株式会社  
北陸支店  
工事長  
**中山正夫**  
Masao Nakayama



写真提供：清水建設株



コンコースのゲート内部には、九谷焼や漆器、輪島塗などの工芸品のプレートが設置されている。

### 稼働中の駅舎 ならではの厳しさ

そしてまた厳しかったのは工期だ。平成二十六年八月二十七日に工事着手。完成は二十七年三月十三日。駅を利用しながらの工事は施工できる時間帯が限られるう

由は、構内の照度も関係している。構内は、間接照明も用いた陰影のある落ち着いた雰囲気。西日本旅客鉄道(株)で定められた駅構内の照度に準じているが、伝統工芸を展示するのに適した明るさとなっている。駅全体の使用電気容量も決められているなかで、消費電力の低いLED照明の導入で可能になった。

え、一度に施工できる範囲も狭い。「駅構内を二〇以上のエリアに分けて、車輪のついた移動式の仮囲いを使用したり、埃の出る床材の撤去と貼り替えは移動可能なテナント内で作業したり、工期に間に合わせるためにはいろいろと工夫しました」と宮本区長。

「能登ひば」の集材材でできたゲートは、幅一メートルと巨大なもの。ただし、そのまま立てれば中央部がたわんでしまう。そのため内部には鉄骨のプレートが仕込まれている。鉄工所で製作された鉄骨を木材の加工所に搬入し一体化させ、その段階での調整がうまくいったので、現場での設置も工期に間に合わせる事ができたという。駅のデザインは、石川県が中心となり、デザイン会議「ステップ21」を組織し検討したもの。従来の駅コンコースは、東口側は新幹線の高架下、中央部分が在来線の高架下、そして西口側は金沢ターミナル開発のビル下と三つのゾーンに分かれていた。今回それらが統一されたデザインとなり、開発が進みつつある駅西側と東側をつなぐ

東口駅前のもてなしドームは、「駅を降りた人に傘を差し出す、もてなしの心」を表現しており、3,019枚のガラスが使われている。



通路は、金沢の都心軸をより明確に示すようになった。

実は金沢駅付近の北陸新幹線の高架は、平成八年には建設されていた。整備新幹線の金沢、西鹿見島では高架が先行して建設された経緯がある。約二〇年前であるその当時に、将来の新幹線開業を見越した駅の骨格ができあがっていた。東広場のもてなしドームと鼓門も平成十七年の三月には完成している。このドームと門は平成二十三年に「世界でもっとも美しい

駅」一四選に、アメリカ「トラベル・レジャー」(ウェブ版)で六位に選ばれている。これだけの実績を備え、金沢駅はまさに満を持しての新幹線開通を迎えたと言えよう。この美しい駅は、すでに金沢の玄関口として多くの市民や観光客に親しまれている。宮本区長は、「加賀百万石の駅はさすが違う」「地元の駅が素敵なのを誇りに思う」といった声をいただいている。本当にうれしく思っています」と笑顔を浮かべた。